

ノーベル生理学・医学賞

赤字: ウェブサイト「医学の歴史」「放射線医学の歴史」へのリンク

受賞年	受賞者名	国籍	受賞理由
1901	ベーリング Emil Adolf von Behring	ドイツ	血清療法, 特にその特にジフテリアへの応用
1902	ロス Ronald Ross	イギリス	マラリアの研究
1903	フィンセン Niels Ryberg Finsen	デンマーク	皮膚結核の光線療法
1904	パヴロフ Ivan Petrovich Pavlov	ロシア	消化生理学の研究
1905	コッホ Robert Koch	ドイツ	結核の研究
1906	ゴルジ Camillo Golgi	イタリア	神経系の構造研究
	カハール Santiago Ramón y Cajal	スペイン	
1907	ラヴラン Charles Louis Alphonse Laveran	フランス	疾病発生における原虫類の役割に関する研究
1908	メチニコフ Ilya Ilyich Mechnikov	ロシア	免疫機構の研究(白血球貪食作用の研究)
	エールリヒ Paul Ehrlich	ドイツ	免疫機構の研究(側鎖説の研究)
1909	コッヘル Emil Theodor Kocher	スイス	甲状腺の生理学, 病理学および外科学的研究
1910	コッセル Albrecht Kossel	ドイツ	核酸, タンパク質に関する研究による細胞化学への貢献
1911	ガルストランド Allvar Gullstrand	スウェーデン	眼の屈折機能に関する研究
1912	カレル Alexis Carrel	フランス	血管縫合および臓器移植に関する研究
1913	リシェ Charles Robert Richet	フランス	アナフィラキシーの研究
1914	バーラーニ Róbert Bárány	オーストリア	内耳系の生理学および病理学に関する研究
1915	—		
1916	—		
1917	—		
1918	—		
1919	ボルデ Jules Bordet	ベルギー	免疫に関する諸発見
1920	クローグ Schack August Steenberg Krogh	デンマーク	毛細血管運動に関する調整機構の発見
1921	—		
1922	ヒル Archibald Vivian Hill	イギリス	筋肉中の熱生成に関する発見
	マイヤーホフ Otto Fritz Meyerhof	ドイツ	筋肉における乳酸生成と酸素消費の研究
1923	バンティング Frederick Grant Banting	カナダ	インスリンの発見
	マクラウド John James Rickard Macleod	イギリス	
1924	アイントホーフェン Willem Einthoven	オランダ	心電図の研究
1925	—		
1926	フィビゲル Johannes Andreas Grib Fibiger	デンマーク	寄生虫発がん説に関する研究
1927	ワグナー=ヤウレック Julius Wagner-Jauregg	オーストリア	麻痺性痴呆に対するマラリア感染療法
1928	ニコル Charles Jules Henri Nicolle	フランス	チフスに関する研究
1929	エイクマン Christiaan Eijkman	オランダ	抗神経炎ビタミン(ビタミンB1)の発見
	ホプキンス Frederick Gowland Hopkins	イギリス	成長促進ビタミン(ビタミンD)の発見
1930	ランドシュタイナー Karl Landsteiner	オーストリア	ヒト血液型の発見
1931	ワールブルク Otto Heinrich Warburg	ドイツ	呼吸酵素の特性および作用機構の発見
1932	シェリントン Charles Scott Sherrington	イギリス	神経細胞の機能に関する発見
	エイドリアン Edgar Douglas Adrian	イギリス	
1933	ハント・モーガン Thomas Hunt Morgan	アメリカ	遺伝における染色体の役割に関する発見
1934	ウィッブル George Hoyt Whipple	アメリカ	貧血に対する肝臓療法に関する発見
	マイノット George Richards Minot	アメリカ	
	マーフィ William Parry Murphy	アメリカ	
1935	シュペーマン Hans Spemann	ドイツ	胚発生における誘導作用の発見
1936	デーレル Henry Hallett Dale	イギリス	神経刺激の化学的伝達に関する発見
	レーヴィ Otto Loewi	アメリカ	
1937	セント=ジェルジ Albert Szent-Györgyi de Nagyrápoly	ハンガリー	生物学的燃焼過程, 特にビタミンCおよびフマル酸の触媒作用に関する発見
1938	ハイマンス Cornille Jean François Heymans	ベルギー	呼吸調節における静脈洞と大動脈機構の役割の発見
1939	ドーマク Gerhard Domagk	ドイツ	プロントジルの抗菌効果の発見
1943	ダム Henrik Carl Peter Dam	デンマーク	ビタミンKの発見
	ドイジー Edward Adelbert Doisy	アメリカ	ビタミンKの化学的性質の発見
1944	アーランガー Joseph Erlanger	アメリカ	個々の神経線維の高度に分化された機能に関する諸発見
	ガッサー Herbert Spencer Gasser	アメリカ	
1945	フレミング Alexander Fleming	イギリス	ペニシリンの発見
	チェイン Ernst Boris Chain	イギリス	
	フローリー Howard Walter Florey	オーストラリア	
1946	マラー Hermann Joseph Muller	アメリカ	X線照射による突然変異体発生の発見
1947	コリ Carl Ferdinand Cori	アメリカ	グリコーゲンの触媒的分解経路の発見
	コリ Gerty Theresa Cori	アメリカ	
	ウッセイ Bernardo Alberto Houssay	アルゼンチン	脳下垂体前葉ホルモンの糖代謝における役割の発見
1948	ミュラー Paul Hermann Müller	スイス	いくつかの節足動物に対するDDTの接触毒としての強力な作用の発見
1949	ヘス Walter Rudolf Hess	スイス	内臓の活動を制御する間脳機能の発見
	モニス António Egas Moniz	ポルトガル	ある種の精神病に対する前額部大脳神経切断の治療効果の発見
1950	ケンダル Edward Calvin Kendall	アメリカ	種々の副腎皮質ホルモンの発見およびその構造と生物学的作用の発見
	ライヒスタイン Tadeusz Reichstein	スイス	
	ヘンチ Philip Showalter Hench	アメリカ	
1951	タイラー Max Theiler	南アフリカ連邦	黄熱およびその治療法に関する発見
1952	ワクスマン Selman Waksman	アメリカ	ストレプトマイシンの発見
1953	クレス Hans Adolf Krebs	イギリス	クエン酸回路の発見
	リップマン Fritz Albert Lipmann	アメリカ	コエンザイムAおよびその中間代謝における重要性の発見
1954	エンダース John Franklin Enders	アメリカ	種々の組織培地におけるポリオウイルスの生育能の発見
	ウェーラー Thomas Huckle Weller	アメリカ	
	ロビンズ Frederick Chapman Robbins	アメリカ	
1955	テオレル Hugo Theorell	スウェーデン	酸化酵素の性質および作用機序の発見
1956	クルナン André Frédéric Cournand	アメリカ	心臓カテーテル法および循環器系の病理学的変化に関する発見
	リチャーズ Dickinson W. Richards	アメリカ	
	フォルスマン Werner Forssmann	ドイツ	
1957	ボベット Daniel Bovet	イタリア	ある種の体内物質の作用を阻害する化合物, 特に血管系および骨格筋への影響の発見
1958	ビードル George Wells Beadle	アメリカ	遺伝子組換えおよび細菌の遺伝物質に関する発見
	タータム Edward Lawrie Tatum	アメリカ	
	レダーバーグ Joshua Lederberg	アメリカ	
1959	オチョア Severo Ochoa de Albornoz	アメリカ	リボ核酸およびデオキシリボ核酸の生合成機構の発見
	コーンバーグ Arthur Kornberg	アメリカ	
1960	バーネット Frank Macfarlane Burnet	オーストラリア	後天的免疫寛容の発見
	メダワ Peter Medawar	イギリス	
1961	フォン=ベークーシ Georg von Békésy	アメリカ	蝸牛における刺激の物理的機構の発見
1962	ワトソン James Dewey Watson	アメリカ	核酸の分子構造および生体の情報伝達におけるその重要性の発見
	クリック Francis Harry Compton Crick	イギリス	
	ウィルキンス Maurice Hugh Frederick Wilkins	イギリス	
1963	エクレス John Carew Eccles	オーストラリア	神経細胞膜の末梢および中枢における興奮と抑制に関するイオン機構の発見
	ホジキン Alan Lloyd Hodgkin	イギリス	
	ハクスリー Andrew Huxley	イギリス	
1964	ブロッホ Konrad Emil Bloch	アメリカ	コレステロールおよび脂肪酸代謝の機構と調節に関する発見
	リュネン Feodor Felix Konrad Lynen	ドイツ	
1965	ジャコブ François Jacob	フランス	酵素およびウイルス合成の遺伝的制御に関する発見
	ルウオフ André Michel Lwoff	フランス	
	モノー Jacques Monod	フランス	
1966	ラウス Francis Peyton Rous	アメリカ	腫瘍ウイルスの発見
	ハギンズ Charles Brenton Huggins	アメリカ	前立腺癌のホルモン療法に関する発見
1967	グラニト Ragnar Granit	スウェーデン	視覚の化学的, 生理学的機序に関する発見
	ハートライン Haldan Keffer Hartline	アメリカ	

1968	ワルド ホリー コロナ ニーレンバーク	George Wald Robert W. Holley Har Gobind Khorana Marshall Warren Nirenberg	アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ	遺伝暗号とそのタンパク質合成における機能の解明
1969	デルブリュック ハーシー ルリア	Max Delbrück Alfred Hershev Salvador Luria	アメリカ アメリカ アメリカ	ウイルスの複製機構と遺伝的構造に関する発見
1970	カツツ フォン・オイラー アクセルロッド	Bernard Katz Ulf von Euler Julius Axelrod	イギリス スウェーデン アメリカ	神経末端における液性伝達物質およびその貯蔵、解離、不活化の機構に関する発見
1971	サザランド	Earl Wilbur Sutherland Jr.	アメリカ	ホルモンの作用機作に関する発見
1972	エーデルマン ポーター	Gerald Edelman Rodney Robert Porter	アメリカ イギリス	抗体の化学構造に関する発見
1973	ローレンツ フォン・フリッシュ ティンバーゲン	Konrad Lorenz Karl von Frisch Nikolaas Tinbergen	オーストリア ドイツ イギリス	個体的および社会的行動様式の組織化と誘発に関する発見
1974	クラウデ ド・デュブ パラデー	Albert Claude Christian de Duve George Emil Palade	ベルギー ベルギー アメリカ	細胞の構造的機能的組織に関する発見
1975	ドゥルベッコ マーティン・テミン ボルティモア	Renato Dulbecco Howard Martin Temin David Baltimore	アメリカ アメリカ アメリカ	腫瘍ウイルスと細胞内の遺伝物質との相互作用に関する発見
1976	ブランバーク ガジュセック	Baruch Samuel Blumberg Daniel Carleton Gajdusek	アメリカ アメリカ	感染症の起源および伝播の新機構に関する発見
1977	ギルマン シャリー ヤロー	Roger Guillemin Andrew Schally Rosalyn Sussman Yalow	アメリカ アメリカ アメリカ	脳のペプチドホルモン産生に関する発見
1978	ネーサンズ スミス アーバー	Daniel Nathans Hamilton O. Smith Werner Arber	アメリカ アメリカ スイス	ペプチドホルモンのラジオイムノアッセイ法の開発 制限酵素の発見と分子遺伝学への応用
1979	ハウズフィールド コーマック	Godfrey Hounsfield Allan McLeod Cormack	イギリス アメリカ	CTの発明
1980	ベナセラフ ドーセ スネル	Baruj Benacerraf Jean Dausset George Davis Snell	アメリカ フランス アメリカ	細胞表面において免疫反応を調節する遺伝的に決定された構造に関する発見
1981	スペリー ヒューベル ウィーセル	Roger Wolcott Sperry David H. Hubel Torsten Wiesel	アメリカ アメリカ スウェーデン	大脳半球の機能分化に関する発見 視覚系における情報処理に関する発見
1982	ベリストローム サミュエルソン ベーン	Sune Bergström Bengt I. Samuelsson John Robert Vane	スウェーデン スウェーデン イギリス	プロスタグランジンおよびそれに関わる生物学的活性物質の発見
1983	マクリントック	Barbara McClintock	アメリカ	転移遺伝因子(トランスポゾン)の発見
1984	イェルネ ケーラー ミルスタイン	Niels Kaj Jerne Georges J. F. Köhler César Milstein	デンマーク ドイツ アルゼンチン	免疫系の選択性に関する研究、モノクローナル抗体の発見
1985	ブラウン ゴールドスタイン	Michael Stuart Brown Joseph L. Goldstein	アメリカ アメリカ	コレステロール代謝調節に関する発見
1986	レーヴィ=モンタルチーニ コーエン	Rita Levi-Montalcini Stanley Cohen	イタリア アメリカ	成長因子の発見
1987	利根川進	Tonegawa Susumu	日本	抗体の多様性に関する遺伝的原理の発見
1988	ブラック エリオン ヒッチングス	James W. Black Gertrude B. Elion George H. Hitchings	イギリス アメリカ アメリカ	薬物療法における重要な原理の発見
1989	マイケル・ビショップ ヴァーマス	J. Michael Bishop Harold Elliot Varmus	アメリカ アメリカ	レトロウイルスの癌遺伝子が細胞起源であることの発見
1990	マレー ドナル・トーマス	Joseph E. Murray E. Donnall Thomas	アメリカ アメリカ	ヒトの疾患治療における臓器および細胞移植に関する発見
1991	ネーアー ザクマン	Erwin Neher Bert Sakmann	ドイツ ドイツ	細胞における単独のイオンチャネルの機能に関する発見
1992	フィッシャー クレープス	Edmond H. Fischer Edwin G. Krebs	スイス アメリカ	生体制御機構としての可逆的タンパク質リン酸化の発見
1993	ロバーツ シャープ	Richard J. Roberts Phillip Allen Sharp	イギリス アメリカ	分断された遺伝子の発見
1994	ギルマン ロッドベル	Alfred G. Gilman Martin Rodbell	アメリカ アメリカ	G蛋白質およびその細胞内情報伝達における役割の発見
1995	ルイス ニュスライン=フォルハルト ヴィーシャウス	Edward B. Lewis Christiane Nüsslein-Volhard Eric F. Wieschaus	アメリカ ドイツ アメリカ	初期胚発生における遺伝的制御に関する発見
1996	ドハーティー ツィンカーナーゲル	Peter C. Doherty Rolf M. Zinkernagel	オーストラリア スイス	細胞性免疫防御の特異性に関する研究
1997	B・ブルシナー	Stanley B. Prusiner	アメリカ	プリオン の発見
1998	ファーチゴット イグナロ ムラド	Robert F. Furchgott Louis J. Ignarro Ferid Murad	アメリカ アメリカ アメリカ	循環器系における情報伝達物質としての一酸化窒素に関する発見
1999	ブローベル カールソン グリーンガード カンデル	Günter Blobel Arvid Carlsson Paul Greengard Eric R. Kandel	アメリカ スウェーデン アメリカ アメリカ	タンパク質が細胞内での輸送と局在化を司る信号を内在していることの発見 神経系における情報伝達に関する発見
2001	ハートウェル ハント ナース	Leland H. Hartwell Tim Hunt Paul M. Nurse	アメリカ イギリス イギリス	細胞周期の制御因子の発見
2002	ブレナー ホロビッツ サルストン	Sydney Brenner H. Robert Horvitz John E. Sulston	イギリス アメリカ イギリス	器官発生とプログラム細胞死の遺伝制御に関する発見
2003	ローターバー マンスフィールド	Paul Lauterbur Peter Mansfield	アメリカ イギリス	MRIの発明
2004	アクセル バック	Richard Axel Linda B. Buck	アメリカ アメリカ	嗅覚受容体および嗅覚系組織の発見
2005	マーシャル ウォレン	Barry Marshall Robin Warren	オーストラリア オーストラリア	ヘリコバクター・ピロリおよびその胃炎や胃潰瘍における役割の発見
2006	ファイア メロー	Andrew Fire Craig Mello	アメリカ アメリカ	RNA干渉の発見
2007	カペッキ エヴァンズ スミティーズ	Mario Capecchi Martin Evans Oliver Smithies	アメリカ イギリス アメリカ	胚性幹細胞を用いたマウスへの特異的な遺伝子改変の導入のための諸発見
2008	ツァ・ハウゼン バレ=シヌシ モンタニエ	Harald zur Hausen Françoise Barré-Sinoussi Luc Montagnier	ドイツ フランス フランス	子宮頸癌を引き起こすヒトパピローマウイルスの発見 ヒト免疫不全ウイルスの発見
2009	ブラックバーン ライダー ヨスタク	Elizabeth H. Blackburn Carol W. Greider Jack W. Szostak	アメリカ アメリカ アメリカ	テロメアとテロメラーゼ酵素の発見
2010	エドワーズ	Robert G. Edwards	イギリス	体外授精技術の開発
2011	ボイトラー ホフマン スタインマン	Bruce Beutler Jules A. Hoffmann Ralph M. Steinman	アメリカ フランス カナダ	自然免疫の活性化に関する発見 樹状細胞とその獲得免疫における役割の発見

2012	ガードン 山中伸弥	John Gurdon Yamanaka Shinya	イギリス 日本	成熟細胞のリプログラミングによる多能性賦与の発見
2013	シェクマン ロスマン スードフ	Randy Schekman James Rothman Thomas C. Südhof	アメリカ アメリカ アメリカ	小胞輸送の解明
2014	オキーフ モーセル モーセル	John O'Keefe May-Britt Moser Edvard I. Moser	アメリカ ノルウェー ノルウェー	脳内の空間認知システムを構成する細胞の発見
2015	キャンベル 大村智 屠呦呦	William C. Campbell Oomura Satoshi Tu Youyou	アイルランド 日本 中国	線虫の寄生による感染症の新たな治療法に関する発見 マラリアの新たな治療法に関する発見
2016	大隅良典	Oosumi Yoshinori	日本	オートファジー機構の解明
2017	ホール ロスバッシュ ヤング	Jeffrey C. Hall Michael Rosbash Michael W. Young	アメリカ アメリカ アメリカ	概日リズムを制御する分子機構の発見
2018	アリソン 本庶佑	James P. Allison Tasuku Honjo	アメリカ 日本	免疫チェックポイント阻害因子の発見と癌治療への応用
2019	ケリン ラトクリフ セメンザ	William G. Kaelin Jr Peter J. Ratcliffe Gregg L. Semenza	アメリカ イギリス アメリカ	細胞による酸素量の検知とその適応機序の解明
2020	オルター ホートン ライス	Harvey J. Alter Michael Houghton Charles M. Rice	アメリカ イギリス アメリカ	C型肝炎ウイルスの発見
2021	ジュリアス パタプティアン	David Julius Ardem Patapoutian	アメリカ アメリカ	温覚と触覚の受容体の発見
2022	ペーボ	Svante Pääbo	スウェーデン	絶滅したヒト族ゲノムと人類の進化に関する発見